

SDGs 達成へ向けたアクションの優良事例の創出を行い、
これを通じた知的基盤を構築する

慶應義塾大学 SFC 研究所

xSDG・ラボ

xSDG コンソーシアム

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



xSDG コンソーシアム 2019年度 研究プロポーザル

慶應義塾大学 SFC 研究所では、持続可能な社会を実現し、多様で複雑な社会における問題解決を行うため、2017年10月に xSDG・ラボ（エクスエスディーラボ）、2018年6月に「xSDG コンソーシアム」を設立しました。研究期間2年度目である2019年度は、未来に向けたビジョンを共有し、協働する仲間である企業や自治体といったステークホルダーのみならずと研究者とのコラボレーションにより、SDGs 目標達成へむけた先進事例や優良事例を作り、これを日本から世界に発信し、スケールアップを目指しています。

※ xSDG コンソーシアムでは、未来に向けたビジョンを共有し、協働する仲間を「Vision Sharing Partner(VSP)」（会員）と呼称します。

SDGs 達成へ向けたアクションの優良事例の創出を行い、 これを通じた知的基盤を構築する

■活動内容

①コンソーシアム・ミーティングで、アイデアの創発

全体会合となる「コンソーシアム・ミーティング」において、毎回テーマに沿った有識者による専門的知識の提供や、関係省庁関係者による最新の政策動向を基にした議論・意見交換・ワークショップ等の実施をつうじて、SDGs 的アクションのあり方を検討します。結果に応じて、課題別分科会を創出します。また、SDGs の国際動向や国内実施、指標、政策の動き等に関する情報提供、情報交換を行います

②分科会で、アイデアをアクションへ

分科会による個別課題を掘り下げた検討により、従来の境界線を越えた（業界横断の）基準や目標、そしてアクションを官民連携で創出します

現在活動している分科会

—金融アセスメントプラットフォーム分科会：

企業評価や金融分野での評価において、これが「正しい」SDGs のアクションだという基準づくりを行なっています

—プラスチック問題分科会：

SDGs を基準にしたときのプラスチック利活用のあり方の提言をまとめます

—認証分科会：

認証制度とSDGs の関係を整理し、どのSDGs ターゲットに貢献しているか分析しています

※ VSP-S（S 会員）および VSP-D（D 会員）、VSP-LG（自治体会員）は、分科会の設置提案と運営、参加が可能。VSP-G（G 会員）および VSP-SME（中小企業会員）は1分科会まで参加が可能

以上に加え、学生との協働（寄付講座設置（別途お申し込み）、授業との連動など）の機会も検討いたします

③企業と地方自治体、関係省庁と NGO/NPO との コラボレーション創出

コンソーシアム・ミーティングや分科会に、企業と地方自治体、オブザーバーとして関係省庁や NGO/NPO が参加することで、パートナーシップ（目標 17）による目標達成を実装します

想定されるパートナーシップ

内閣府地方創生推進事務局「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」と連携し、官民マッチング後の課題検討を深掘りし、実態を伴うプロジェクトを創出
アジア太平洋パートナーシップガイドライン（国連アジア太平洋経済社会委員会と国連大学サステナビリティ高等研究所 GSD プロジェクト（プロジェクトマネージャー：蟹江憲史）の共同研究成果）の改定版に成果をインプット

④コンソーシアム相談会の開催

アクション創出へ向けたアドバイスの実施をいたします

※ VSP-S（S 会員）および VSP-D（D 会員）が対象

⑤シンポジウム等の開催

※ VSP-S（S 会員）が対象

⑥年次報告会の開催

⑦年次報告書の公表

⑧「SDGs 白書」の刊行

⑨その他の媒体による発信

例；朝日新聞未来メディア 2030 での発信、など

■成果（予定）

- ・年次報告会の開催（VSP-S（S会員）およびVSP-D（D会員）、VSP-LG（自治体会員）による報告、など）
- ・年次報告書の発行（メンバー、VSP-S（S会員）およびVSP-D（D会員）、VSP-LG（自治体会員）を中心に分担執筆）
- ・「SDGs白書」の刊行（メンバー、VSP-S（S会員）およびVSP-D（D会員）、VSP-LG（自治体会員）を中心に分担執筆）
 - 優良事例を中心に「SDGsのいま」を発信
 - 「SDGs的出版」を予定（協力：インプレスR&D社）
- ・各分科会による成果
 - SDGs企業評価指標
 - SDGsのためのプラスチック問題対応へのロードマップ
 - SDGsと認証制度の整理学
- ・国連による「持続可能な開発のためのハイレベル政治フォーラム（High-level Political Forum on Sustainable Development；HLPF）における、xSDG・ラボおよびxSDGコンソーシアム主催による公開イベントをニューヨークで開催（2019年予定）
- ・シンポジウム等の開催（VSP-S（S会員）による）
 - ※全研究期間をつうじた活動による



■研究期間（予定）

第1期研究期間：2018年6月～2021年3月

2019年度研究期間：2019年4月～2020年3月

■2019年度活動計画（予定）

- ・コンソーシアム・ミーティング
 - 年3回程度、都内にて開催
- ・年次報告会
 - 年1回、都内にて開催
- ・「年次報告書」発行
- ・コンソーシアム相談会開催
- ・各分科会活動
- ・デジタル・プラットフォームの提供
 - 会員メーリングリストへのご参加
 - ニュースレターの配信による電子媒体での情報提供
- ・SFC Open Research Forum*や外部イベント（シンポジウム等）への参加
 - * <https://www.kri.sfc.keio.ac.jp/ja/orf/orf.html>

■対象となるVSP（会員）

- ・慶應義塾大学SFC研究所との連携により、SDGsの優良事例創出を考える企業、組織団体
- ・慶應義塾大学SFC研究所との連携により、SDGsの優良事例創出を考える自治体

■Vision Sharing Partner制度（会員制度）

xSDGコンソーシアムは、SFC研究コンソーシアム*として実施される共同研究（年会費制）の一種です。xSDGコンソーシアムでは、未来に向けたビジョンを共有し、協働する仲間として、会員の呼称を「Vision Sharing Partner(VSP)」としています。詳細は、事務局までお問い合わせください。

* <https://www.kri.sfc.keio.ac.jp/ja/activity/consortium.html>

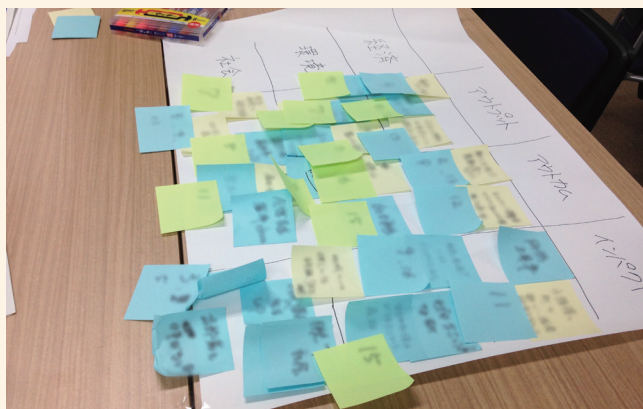


■ xSDG・ラボとの共同研究

企業や自治体のみなさまと、個別の課題に応じたテーマードの活動として、共同研究を推進しています。

2019 年度共同研究課題例

- 感じ良い社会の実現に向けた
SDGs の戦略的実現モデルの創出
- 日本版 SDGs の指標検討及び
GIS を活用した指標の可視化
- 静岡市における五大構想のターゲットと
指標作成に関する研究
- 地方自治体政策検証
- 金融アセスメントフレームワークツールを使用した
実装モデルの構築



■ SFC メンバー

代表、統括

蟹江 憲史
(政策・メディア研究科教授)

植原 啓介
(環境情報学部准教授)

加藤 文俊
(環境情報学部教授)

川本 充
(政策・メディア研究科特任講師)

国谷 裕子
(政策・メディア研究科特任教授)

小坂 真理
(SFC 研究所 上席所員)

佐久間 信哉
(政策・メディア研究科特任教授)

高木 超
(蟹江研究室 研究員)

田中 浩也
(環境情報学部教授、SFC 研究所 所長)

玉村 雅敏
(総合政策学部教授)

寺田 好秀
(政策・メディア研究科 研究員)

村井 純
(政策・メディア研究科 委員長、環境情報学部教授)

吉崎 仁志
(環境情報学部 准教授)

(学外協力者)

川廷 昌弘
(グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン SDGs タスクフォース リーダー)

関係省庁
その他ステークホルダー

お問い合わせ

慶應義塾大学 SFC 研究所 xSDG・ラボ事務局

〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤 5322

E-mail: xsdg@sfc.keio.ac.jp

※記載内容は変更が生じる場合もございます (20190226)

制作協力：株式会社 大川印刷